



あいじつ



開校 144 周年

新たなる年のはじめに

校長 水野 睦子

何となく 今年はよい事あるごとし 元旦の朝 晴れて風無し

石川 啄木

令和7年、2025年が始まりました。石川啄木の短歌にあるような、お天気の良い元旦でした。皆様にとりまして素晴らしい1年となりますよう、心からお祈り申し上げます。

2025年の干支は、「巳（み・へび）」です。へびは、脱皮し生まれ変わることから「成長」の象徴とされ、「新しいことが始まる年」になると言われています。子どもたちはどのような新しいことに挑戦しようか決意したでしょうか。

今年の11月15日から26日の12日間、東京2025デフリンピックが開催されます。デフリンピックは、きこえない・きこえにくい選手のための国際的なスポーツ大会です。競技によって、視覚的情報保障の方法が違います。例えば、陸上では、スタートとフライングの合図を音の他にランプを点灯したり、サッカーでは、主審がホイッスルの他にフラッグをあげて合図を送ったりするなど、様々な工夫がされています。

子どもたちが新しいことに挑戦したとき、失敗をしたり、上手いかなかったりすることがあるかもしれませんが、そんなとき、自分で、また友達と一緒に考え工夫することで、課題を解決する力をつけてほしいと願っています。教職員は子どもたちの頑張りを全力で応援していきます。

愛日小学校に関わる全ての人が幸せを感じる学校、そして、子どもたちの笑顔が溢れる毎日行きたくなる楽しい学校となるよう、教職員一同「チーム愛日」として努めてまいります。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

保・幼・子・小連携教育について

担当 小黒 靖子

本校では、「園児と児童が互いに学び合う」という視点をもって、様々な取り組みを行っています。その一つが、たてわり班活動の「なかよしの日」です。遊びを計画する段階で、子供たちは「どんな遊びなら一緒に楽しめるかな。」と相手意識をもって考え、当日は遊び方を丁寧に説明したり、手伝ってあげたりと、優しく思いやりをもって接する姿がたくさん見られました。その他にも、校内の阿波踊り大会や学芸会の参観など、園児と児童が互いに学び合う機会を作っています。

1月には今年度2回目の「なかよしの日」が、2月には一年生と園児との交流会が予定されています。「小学校っていいな。入学が待ち遠しい。」と思ってもらえるような活動になるよう、進めていきたいと思っています。

書き初め展について

担当 本村 文香

「うまく書けた!」という、子どもたちの満足げな表情。「う〜ん…」口をへんの字に曲げて長半紙を取り替える姿。毎年、新年早々アリーナで行っている「席書会（せきがきかい）」で見られる姿です。紙に筆で文字を書くことが、日本の文化であることは誰もが認めることでありながら、年々その感覚すら薄らいでいると感じることも増えています。しかし、一步国外に出た時には、自国の文化をどれだけ熱をもって語ることができるかが問われる、とも言います。パソコンで打った文字がこれだけ氾濫しているからこそ、手書きのよさ、筆で書くよさが際立ってくるのかもしれませんが、そんな日本の文化に触れる機会となる、書き初め。子どもたち一人一人が自分と一生懸命向き合った頑張りのあとを、ぜひご覧ください。